



NPO PTPL “ともいき” 便り No.65

平成 26 年（2014 年）12 月 7 日発行

■大雪（たいせつ） 12 月 7 日から 12 月 21 日までの節気

節気は「大雪」に入ります。「平地でも霜が降り、すっかり冬景色となる。枯葉が木枯らしに舞う」頃とあります。（「ともいき暦」より）先日、武蔵野の面影が残る公園に行ってきました。黄葉したイチョウが地面を覆い、ハラリハラリとスズカケノキの葉が散り、逆光で見るカエデの紅葉のきれなこと。歩いていると、枯葉がカシャカシャと音をたて、土に戻る葉のにおいがしてきます。空気も澄んで、空は青。とても気持ちのいい時間でした。NPO PTPL のホームページに「かえで二十四節気」というプログラムがあります。樹齢約 200 年の大かえでの一年を二十四節気で定点撮影した映像を見ることができます。七色に色を変えながら紅葉し、散っていく大かえでの姿をお楽しみください。
(http://www.tomoiki.tv/flv_new/?file=kaede&key=kaede24)

冬の季語に「火鉢」があります。NPO PTPL のホームページのトップの「季語について」をクリックすると、春夏秋冬の季語とその説明を読むことができます。ちなみに「火鉢」は「…(略)…平安時代の神殿造りの家屋は、煙と煤を嫌って囲炉裏のような日を焚けませんので、檜や杉の曲物に土製の容器を入れ火桶としました。それが普及して次第に派手なものが生まれました。付属品は、五徳に銅壺、火箸、灰均しの 4 点です。背のひよろ長い人の形容を「鍛冶屋の歳暮」と言いますが、昔の鍛冶屋が歳暮に火箸を配ったことに由来します」と書かれています。今、火鉢のある家は多くないと思いますが、皆様のご家庭ではいかがですか。我が家には親から引き継いだ火鉢がありますが、長いこと金魚鉢になっています。火鉢にとっては不本意だと思うのですが。季語は他にも「空風(からかぜ)」「山眠る」「枯園」「冬の霧」など、眺めているだけで冷えそうな言葉がずらりと並んでいます。解説も充実していますので、ぜひご覧ください。

12月15日、16日と来年1月15日、16日に、世田谷ボロ市が開かれます。ボロ市は天正6年(1578年)に始まり、農民たちの野良着やわらじの繕い用にボロが多く売られたことから命名されたそうです。旧暦の15日は満月ですから、月明かりの中、夜まで賑わったことでしょう。ずいぶん前になりますが、私も父と息子たちと行ったことがあります。世田谷線の上町で降りると、「ボロ市通り」まですぐです。通りの両側には、ちいさな出店がぎゅうぎゅうに並び、通りは人、人、人でぎゅうぎゅう詰め。もちつき臼と杵が売られていたり、バナナのたたき売りが大声で叫んでいたり、まあ、すごいこと。臼を買った人はどうやって持って帰るのでしょうか。まさか転がしてじゃないですよね。昔は農具やボロが中心だったそうですが、今はいろんなお店が出てにぎやかです。不用品はもちろんです。焼き菓子やパン、植木やアクセサリー、靴やらおもちゃやら。ちなみに、その時はバナナのたたき売りに魅せられた息子たちのために、父がバナナを大量に買ってくれました。今年は久しぶりに年の瀬の雰囲気を楽しむに行ってみようかな。

日本の年の瀬というと、なぜか「第九」の演奏会があります。交響曲第九番ニ短調作品125。ベートーベンの最後の交響曲です。第九の演奏会は第二次大戦後、オーケストラが年末に団員への特別報酬を支払うために企画されたのがはじまりとのことですが、年末にこんなに集中的に演奏されるようになったのですから、最初に考えた人はすばらしいセンスの持ち主だと思います。第4楽章はソリストと合唱が加わり、「歓喜の歌」で盛り上がります。ホールに響きわたる合唱にはいつも圧倒されて、ドキドキしてしまいます。ベートーベンが10代のときに感動したというシラーの詩。ドイツ語の意味もわからないのに感動するのは、曲にこめられたベートーベンの思いが演奏を通して伝わってくるからでしょうか。‘年末に第九’。もう何年も行っていなかったのですが、今年は久しぶりに聴きに行こうと思いチケットを購入しました。

世田谷ボロ市、第九と、‘久しぶりに’が続く年末になりそうです。

インフルエンザが流行しています。皆さま、くれぐれもお身体を大切になさってください。

すとう あさえ (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事)

■ ともいき・ともうみ・ともさち雑感彼は

「冬至冬なか冬はじめ」

◎冬の日本列島弧の天気は脊梁山脈を境にして、大きく二つに分かれます。つまり、日本海側と太平洋側とは正反対の天気になります。

日本海側では、冬型の気圧配置になると雲が低く垂れこめて、雹（ひょう）や霰（あられ）や霽（みぞれ）が降るようになり、やがて冬が深まるにつれて雪に明け暮れる毎日となり、豪雪地帯と化します。

これに対して、太平洋側では、空っ風が吹き、乾燥した晴天が続きます。空気はカラカラに乾き、一年のうちで最も降水量が少ないのはこの時期です。しかし、太平洋側でも、東北地方や関ヶ原周辺、四国の瀬戸内側や、九州の西海岸などは日本海側と似た天気になります。

太陽の動きからみると、冬至が冬の真ん中で、この日を過ぎると太陽は少しずつ高くなり、春に向かって新しい一步を踏み出すわけです。

しかし、寒さの底は冬至よりも1か月近く後、（小寒で寒の入り、節分で寒の明け、そして立春。この頃が寒さの頂点です。）昔から「冬至冬なか冬はじめ」といわれるのもうなづけます

◎冬至の日、カボチャや小豆粥を食べると風邪をひかないとか、柚子湯に入ると長生きできるなどといわれてきたのは、この時季の気候変化を念頭においてのことと思われる。

夏野菜であるカボチャは冬至用に大切に保存されたのでしょう。このビタミンCのほかカロチン即ちビタミンAを豊富に含む栄養豊かな野菜をたっぷり食べ、ビタミンCが豊富で香りのよい、柚子湯で身体を温めれば、深まる寒さへの備えになること間違いありません。

※注

小豆粥を食べると病気を引き起こすもとになるといわれる毒素（邪気）が払われるといわれています。

また、小豆の赤色を太陽に見立て、太陽のエネルギーにあやかりたいと考えたのでは？

ジャパネスク



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■ 事務局だより

- 大雪の節気に符牒を合わせるように12月第一週の週末は、各地で大雪に見舞われ、大きな被害が出ました。特に、徳島県の山間地域では、この寒さの中、3日間も停電が続き、住民の方々はIP電話や携帯電話が使えないため、外部との連絡が途絶え心細い日を送られたことでしょう。携帯電話は、今や、欠かせないコミュニケーションツールです。しかし、いったん、災害などで停電になったら携帯電話もただの箱と化します。このことは地方に限ったことではないでしょう。

日本列島は電柱だらけ。大都市や観光地など一部では、電柱の地中化がすすめられていますが、景観的にも、電気の安定供給のためにも、全国津々浦々、電柱の地中が急がれます。

- フェイスブック「不思議・驚き・魅力のジャパネスク」を立ち上げました。「ともいきぐらい」おらが富士計画 ふるさと富士山探し」同様、是非ご覧いただき、そしてご意見、ご感想をお寄せください。お待ちしております。
アドレス：<https://www.facebook.com/japanesque.tokyo>

●会員募集のご案内

NPO活動を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPLでは、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAXにてお尋ねください。

■お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル7階

電話：03-6205-7503 FAX：03-6205-7504

Email：info@plantatree.gr.jp